お歳暮のお礼状　全 33 文例集

お歳暮のお礼状 30 本とお中元のお礼状 3 本の全文です。文章を選んでコピーし、〇〇のところと日付・差出人・宛名を書き換えて使ってください。文例は自作で、氏名・社名はすべて架空です。弔事ではないので句読点を付けています。作法の出典は web ページ（https://template-free.jp/business2/oseibo-oreijo/）にあります。

A. 取引先から頂いたとき・取引先へ出すお礼状（文例 1〜5）

文例 1　取引先（法人宛）・標準の封書

拝啓　師走の候、貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたびはご丁寧なお歳暮の品を頂戴し、誠にありがとうございました。早速、社員一同で分け合い、大変喜んでおります。いつもながらのお心遣いに、恐縮するとともに深く感謝いたしております。

本年も皆様のおかげをもちまして、無事に年の瀬を迎えることができました。来年も変わらぬご指導ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

末筆ながら、貴社のますますのご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

まずは略儀ながら書中をもちまして、お礼申し上げます。

敬具

令和八年十二月〇日

株式会社〇〇　営業部　山田健一

〇〇株式会社　営業部長　佐藤次郎様

文例 2　取引先・初めて頂いたとき

拝啓　初冬の候、貴社におかれましてはますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

このたびはお心のこもったお歳暮の品を賜り、誠にありがとうございました。当社へのお心遣いに、身の引き締まる思いでございます。

本年よりお取引をいただいたばかりにもかかわらずのお心遣い、ご縁に改めて感謝申し上げます。来年はより一層お役に立てますよう、精進してまいります。

まずは書面にてお礼かたがたご挨拶申し上げます。

敬具

令和八年十二月〇日

株式会社〇〇　代表取締役　山田健一

〇〇株式会社　代表取締役　佐藤次郎様

文例 3　取引先・毎年頂いている方へ

拝啓　師走の候、貴社ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。

毎年変わらぬお心遣いを賜り、恐縮の至りでございます。このたびもお歳暮の品を頂戴し、誠にありがとうございました。

私どもは本年も皆様に支えられ、〇〇の案件を滞りなく終えることができました。心より御礼申し上げます。

来年もご期待に応えられるよう努めてまいります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

略儀ながら書中にてお礼申し上げます。

敬具

令和八年十二月〇日

株式会社〇〇　山田健一

文例４　個人事業主・経営者宛（手書きの一言を添える形）

拝啓　歳末の候、〇〇様にはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。このたびはお歳暮の品をお送りいただき、ありがとうございました。〇〇は家族でおいしく頂いております。本年中のご厚情に感謝し、来年もよろしくお願い申し上げます。

敬具

令和八年十二月〇日

山田工務店　山田健一

（印刷した本文の下に手書きする一言）

「いつも本当にありがとうございます。ご家族の皆様にもよろしくお伝えください。良いお年をお迎えください。」

文例５　取引先・はがきの簡易版

拝啓　歳末の候、貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。このたびはご丁寧にお歳暮を頂戴し、誠にありがとうございました。社員一同、大変喜んでおります。来年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。略儀ながら、書中にてお礼申し上げます。

敬具

令和八年十二月〇日

株式会社〇〇　山田健一

B. 上司・恩師・目上の方へ（文例６〜７）

文例６　直属の上司へ（会社の上司から自宅へ頂いた場合）

拝啓　師走の候、〇〇部長におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたびはご丁寧なお歳暮をお贈りいただき、誠にありがとうございました。思いがけないお心遣いに、家族ともども恐縮しております。〇〇は家族でおいしく頂きました。

本年も公私にわたりご指導を賜り、心より感謝申し上げます。来年も一層努力してまいりますので、変わらぬご指導をお願い申し上げます。

末筆ながら、ご家族の皆様もどうぞ良いお年をお迎えください。

敬具

令和八年十二月〇日

山田健一

〇〇部長　佐藤次郎様

文例７　恩師・目上の方へ（個人の立場）

拝啓　歳末の候、先生にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたびは心のこもったお歳暮の品をお送りいただき、まことにありがとうございました。お心遣いに恐縮しております。

日頃のご無沙汰をお詫び申し上げます。おかげさまで私どもも元気に暮らしております。

寒さが厳しくなってまいります。どうぞご自愛のうえ、よい新年をお迎えください。

敬具

令和八年十二月〇日

山田健一

佐藤次郎先生

C. 親戚・義実家・実家・友人へ（文例８〜11）

文例 8　親戚（叔父・叔母）へ

拝啓　師走に入り、めっきり寒くなりましたが、叔父様、叔母様にはお元気でお過ごしでしょうか。

このたびはお歳暮にと〇〇をお送りいただき、ありがとうございました。子どもたちも大喜びで、さっそくいただきました。毎年お気遣いをいただき、恐縮しております。

お二人とも、寒さに負けずお元気でお過ごしください。お正月には、また近況をご報告に伺いたいと思っております。

まずはお礼まで。

敬具

令和八年十二月〇日

山田健一・花子

叔父様・叔母様

文例 9　義父母（妻・夫の両親）へ（夫から）

拝啓　歳末の候、お義父さま、お義母さまにはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

このたびは、お歳暮の品をお送りいただき、ありがとうございました。花子ともども、ありがたく頂戴いたしました。毎年お気遣いをいただき、恐縮しております。

本年もいろいろとお世話になりました。お正月には家族そろってご挨拶に伺う予定でおります。寒さが続きますので、お風邪など召されませんよう、お体をお大事になさってください。

敬具

令和八年十二月〇日

山田健一

お義父さま・お義母さま

文例 10　実家の親へ（くだけた言い方）

お歳暮の〇〇、昨日届きました。ありがとう。子どもたちも喜んで食べています。

毎年気を遣わせてしまって申し訳ないです。あまり無理をしないでください。お正月は〇日に帰ります。それまで、お父さんもお母さんも体に気をつけてください。

令和八年十二月〇日

健一

文例 11　友人へ（はがき）

お歳暮の〇〇、ありがとう。家族みんなでおいしく頂きました。毎年気を遣ってもらって恐縮です。今年も一年、いろいろ支えてもらいました。寒くなりますので、風邪など引かないように。また近いうちに会いましょう。

令和八年十二月〇日

山田健一

D. お礼メール・お礼の電話（文例 12〜18）

文例 12　取引先へのお礼メール（標準）

件名: お歳暮のお礼（〇〇株式会社　山田）

〇〇株式会社　営業部　佐藤次郎様

いつも大変お世話になっております。株式会社〇〇の山田です。

本日、お歳暮の品が届きました。このたびはご丁寧なお心遣いをいただき、誠にありがとうございます。社員一同、ありがたく頂戴いたします。

本年も多大なるご協力を賜り、心より感謝申し上げます。来年も変わらぬお付き合いのほど、よろしくお願い申し上げます。

本来であれば書面にてお礼を申し上げるところ、メールにて失礼いたします。

株式会社〇〇　営業部　山田健一（連絡先）

文例 13　上司へ（社内メール）

件名: お歳暮のお礼

〇〇部長

お疲れ様です。山田です。

このたびはお歳暮をお送りいただき、ありがとうございました。家族で頂きました。お気遣いに感謝いたします。

来年もご指導のほど、よろしくお願いいたします。

山田健一

文例 14　届いたことだけ先に知らせる（受領のご連絡・後日書面を出す場合）

件名: お歳暮の受領のご連絡

〇〇株式会社　佐藤次郎様

お世話になっております。株式会社〇〇の山田です。

お歳暮の品が本日届きましたので、取り急ぎご連絡いたします。ご丁寧なお心遣いに、深く感謝申し上げます。

あらためて書面にてお礼を申し上げます。まずはメールにてお礼とご報告まで。

株式会社〇〇　山田健一

文例 15　親しい取引先へ（くだけたメール）

件名: お歳暮ありがとうございます

佐藤様

山田です。いつもお世話になっています。

お歳暮の〇〇、今日届きました。毎年お気遣いいただいて、恐縮です。みんなで頂きます。

今年は〇〇の件で大変お世話になりました。来年もよろしくお願いします。寒くなりますので、お体に気をつけてください。

山田

文例 16　お礼の電話（話し言葉・取引先の担当者に）

「お世話になっております。株式会社〇〇の山田と申します。佐藤様はいらっしゃいますか。」

（本人が出たら）「お忙しいところ失礼いたします。本日、お歳暮の品が届きましたので、お礼を申し上げたくお電話いたしました。ご丁寧にありがとうございます。社員一同、頂戴いたします。」

「今年も大変お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。」

「あらためて書面でもお礼を申し上げます。失礼いたします。」

注: 取引先には、電話のあとで書面も出すと丁寧です。日本郵便のコラムは「電話で連絡したうえで、お礼状を返すのはマナー」とし、高島屋は、すぐ出せないときはまず電話かメールで伝え、遅くとも 1 週間以内に送付するとしています。年末は相手が忙しいので、電話は短くします。相手の都合で読めるメールや手紙のほうがよい場面もあります（日本郵便）。

文例 17　お礼の電話（親戚・個人宛）

「もしもし、山田です。叔母さん、お元気ですか。今、お時間大丈夫ですか。」

「お歳暮の〇〇、昨日届きました。ありがとうございます。子どもたちも大喜びです。」

「毎年気を遣っていただいて、申し訳ないです。来年も元気でお会いしたいと思っています。」

「寒くなりますので、お体に気をつけてください。それでは、失礼します。」

文例 18　留守番電話に残すとき

「〇〇株式会社の佐藤様、株式会社〇〇の山田です。お歳暮の品が届きましたので、お礼を申し上げたくお電話しました。ありがとうございました。あらためて、また書面かメールでお礼を差し上げます。お忙しいところ失礼しました。」

E. お返しは必要か・お返し不要の伝え方（文例 19〜21）

文例 19　お返し（返礼）の品を贈るときの送り状（お礼状を兼ねる）

拝啓　師走の候、〇〇様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

先日は結構なお歳暮の品を賜り、ありがとうございました。お礼のしるしに、心ばかりの品をお送りいたしました。ご笑納くだされば幸いです。

本年もお世話になりました。来年も変わらぬお付き合いをお願い申し上げます。

敬具

令和八年十二月〇日

山田健一

文例 20　こちらが贈る側で「お返し不要」を添える送り状（品物より先に郵送）

拝啓　師走の候、〇〇様にはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

本年も大変お世話になりました。日頃の感謝のしるしとして、別便にて心ばかりの品をお送りいたしました。〇日ごろ届く予定です。ご笑納いただければ幸いです。

なお、お返しなどのお心遣いは、どうぞなさいませんようお願い申し上げます。

どうぞ良い新年をお迎えください。

敬具

令和八年十二月〇日

山田健一

文例 21　毎年頂く方へ「お気持ちだけで」と丁寧に伝える（お礼状の末尾の一文）

「毎年お心遣いを賜り、大変恐縮しております。お気持ちだけで十分でございますので、どうぞご無理のないようになさってください。」

注: 親戚・義実家宛の文例 8・9 の末尾にそのまま足せます。取引先には「ご無理のないように」が相手の事情に踏み込みすぎるので使わず、来年から断りたい場合は文例 24 を使います。

F. お歳暮を辞退したいとき（文例 22〜24）

文例 22　取引先へ（会社の方針で受け取れない・贈る前に）

拝啓　晩秋の候、貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、誠に勝手ながら、当社では社内規定により、お中元・お歳暮などの贈答品を今後お受けしないこととなりました。これまでのご厚意に感謝しつつ、事情をご賢察のうえご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後とも変わらぬお付き合いのほど、よろしくお願い申し上げます。

まずは略儀ながら書面にてご通知申し上げます。

敬具

令和八年十一月〇日

株式会社〇〇　総務部長　山田健一

文例 22 の差し替え段落（社内規定があるのに、お歳暮が届いてしまったとき）

「さて、」以下をこの段落に替えます。時候は「師走の候」、日付は 12 月にします。結びは「略儀ながら書中にてお礼とお詫びを申し上げます。」にします。

さて、このたびはご丁寧なお歳暮の品をお送りいただき、心より御礼申し上げます。せっかくのお心遣いですが、当社では社内規定により、お取引先様からの贈答品をお受けしておりません。誠に恐縮ながら、お品は別便にてご返送させていただきました。事情をご賢察のうえ、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

文例 23　親戚・知人へ（高齢・負担を理由に・贈る前に）

拝啓　晩秋の候、〇〇様にはお元気でお過ごしのことと存じます。

毎年お心のこもったお品をお贈りいただき、本当にありがとうございます。

実は私どもも年を重ね、身の回りのことを少しずつ簡素にしていきたいと考えるようになりました。誠に勝手ながら、本年の暮れより、お中元・お歳暮のやり取りを控えさせていただきたく存じます。こちらからのお贈り物も、これまでとさせていただきます。

長年の温かいお心遣いに、心より感謝申し上げます。これからも変わらぬお付き合いをどうぞよろしくお願いいたします。

寒さに向かう折、どうぞお体を大切になさってください。

敬具

令和八年十一月〇日

山田健一

文例 24　頂いたお礼とあわせて、来年からの辞退を伝える

拝啓　歳末の候、〇〇様にはご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびはお歳暮の品を頂戴し、ありがとうございました。毎年のお心遣いに感謝しております。

お心遣いは大変うれしく存じますが、毎年のことで恐縮しております。勝手なお願いで申し訳ございませんが、どうか今後はこのようなお気遣いをなさいませんよう、お願い申し上げます。

本年もお世話になりました。これからも変わらぬお付き合いのほど、よろしくお願い申し上げます。

敬具

令和八年十二月〇日

山田健一

G. 喪中の相手・自分が喪中のとき（文例 25〜26）

文例 25　相手が喪中のとき・年明けに「寒中御見舞」として贈る送り状

寒中お見舞い申し上げます。

ご服喪中と伺い、年始のご挨拶は控えさせていただきました。寒さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

旧年中のお礼のしるしに、心ばかりの品を別便にてお送りいたしました。お納めいただければ幸いです。どうぞお返しなどのお気遣いはなさいませんように。

ご家族の皆様が穏やかにお過ごしになれますよう、お祈り申し上げます。

令和九年一月〇日

山田健一

注: 寒中見舞いの形なので、頭語・結語は付けません。出す時期は松の内明けから、節分（2 月 3 日ごろ）までに届くように出します。立春（2 月 4 日ごろ）までとする案内もあります（日本郵便）。「ご笑納」は相手の状況を考えて使いません。「重ね重ね」「たびたび」「くれぐれも」などの重ね言葉と、「ますます」も使いません。

文例 26　自分（こちら）が喪中のときに頂いたお礼（個人宛）

拝啓　歳末の候、〇〇様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

このたびは心のこもったお歳暮の品をお送りいただき、ありがとうございました。家族でありがたく頂戴いたしました。いつも気にかけていただき、感謝しております。

寒さが厳しくなってまいります。どうぞお体を大切になさってください。

略儀ながら書中にてお礼申し上げます。

敬具

令和八年十二月〇日

山田健一

注: 喪中であることは書きません（そごう西武）。「お慶び」「ご清祥」「ご清栄」「良いお年を」「新年」は使いません。相手が喪中でこちらがお礼状を出すときも、同じ言い回しでかまいません。

文例 26 の差し替え段落（故人宛にお歳暮が届いたとき）

「このたびは」以下をこの段落に替えます。最後の一文は、今後のやり取りを終える場合だけ入れます。

このたびは、父　山田一郎宛にお歳暮の品をお送りいただき、誠にありがとうございました。父は本年〇月に永眠いたしました。生前のご厚情に深く感謝いたしますとともに、ご通知が行き届かず失礼いたしましたことをお詫び申し上げます。頂戴したお品は、父に供えさせていただきます。なお、今後はどうぞお気遣いありませんようお願い申し上げます。

H. お礼が遅れたとき・年が明けたとき（文例 27〜28）

文例 27　お礼が遅れたとき（年内）

拝啓　歳末の候、〇〇様にはご清栄のこととお慶び申し上げます。

お歳暮の品をお送りいただきながら、ご挨拶が遅れましたことをお詫び申し上げます。〇〇は家族でありがたく頂戴しました。心のこもったお品に感謝いたしております。

本年も何かとお世話になりました。来年もよろしくお願い申し上げます。

敬具

令和八年十二月〇日

山田健一

文例 28　年が明けてしまったとき（寒中見舞いの形・松の内明け〜立春前）

寒中お見舞い申し上げます。

旧年中はお歳暮の品をお送りいただき、ありがとうございました。年内にお礼を申し上げるべきところ、失礼をいたしました。〇〇は家族でありがたく頂きました。

本年も変わらぬお付き合いのほど、お願い申し上げます。寒さ厳しき折、どうぞご自愛ください。

令和九年一月〇日

山田健一

注: 出す時期は松の内明け（関東など 1 月 7 日までの地域は 1 月 8 日以降、関西など 15 日までの地域は 1 月 16 日以降。1 月 10 日までの地域もあります）から、節分（2 月 3 日ごろ）までに届くように出します。立春（2 月 4 日ごろ）までとする案内もあります（日本郵便）。松の内の間（元日から）なら、年賀状にお礼の一文を添える形でもかまいません。こちらや相手が喪中のときは、年賀状ではなく寒中見舞いにします。

I. お歳暮の送り状・添え状（文例 29〜30）

文例 29　送り状（取引先・品物より先に封書で郵送）

拝啓　師走の候、貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年中の感謝のしるしとして、別便にて心ばかりの品をお送りいたしました。〇月〇日ごろお手元に届く予定でございます。ご笑納いただければ幸いです。

来年も変わらぬお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴社のますますのご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

敬具

令和八年十二月〇日

株式会社〇〇　山田健一

〇〇株式会社　〇〇部長　佐藤次郎様

文例 30　添え状（品物に同封する一筆箋・カード）

〇〇様

今年も大変お世話になりました。ささやかですが、〇〇をお届けします。ご家族の皆様で召し上がっていただければうれしいです。寒さが厳しくなりますので、どうぞお体を大切に、良いお年をお迎えください。

山田健一

注: 一筆箋 1 枚に収まる長さです。宅配便に入れるときは封をしません。目上の方には、これとは別に文例 29 の形の送り状を郵送すると丁寧です。

J. お中元のお礼状（文例 31〜33）

文例 31　取引先へ（お中元のお礼状・封書）

拝啓　盛夏の候、貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたびはご丁寧なお中元の品を頂戴し、誠にありがとうございました。社員一同、ありがたく頂戴いたしました。

暑さ厳しき折、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。今後とも変わらぬご支援のほど、お願い申し上げます。

敬具

令和九年七月〇日

株式会社〇〇　山田健一

注: 立秋（8 月 7 日頃）を過ぎて届いた場合（関西など 8 月にお中元を贈る地域）は、時候を「残暑の候」に替えます。

文例 32　お中元のお礼メール（取引先）

件名: お中元のお礼（〇〇株式会社　山田）

〇〇株式会社　佐藤次郎様

いつも大変お世話になっております。株式会社〇〇の山田です。

本日、お中元の品が届きました。ご丁寧なお心遣いをいただき、誠にありがとうございます。

暑い日が続きます。お体にお気をつけください。引き続きよろしくお願い申し上げます。

株式会社〇〇　山田健一

文例 33　お中元・親戚へ（はがき）

拝啓　暑さ厳しき折、叔父様、叔母様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。

このたびはお中元をお送りいただき、ありがとうございました。子どもたちも喜んで頂いております。暑さが続きますので、どうぞお体を大事になさってください。

敬具

令和九年七月〇日

山田健一

※ 文例は自作で、監修者はいません。作法の根拠と出典は、ページ本文の「書き方のきまり」「出典」にまとめています。

※ 喪中のとき（文例 25・26）は、「お慶び」「ご清栄」「ご健勝」「ご繁栄」「ご発展」「ますます」「良いお年を」「新年」を使いません。